住民のための市政を！！

ごうつ民報

日本共産党江津市委員会
電話　５２－２６３３
ＦＡＸ　５２－７２４４
ＮＯ．２４１９
２０２０年１０月４日

江津市議会９月定例会
市長が８４２０万円の補正予算案を追加提案

９月24日に最終日をむかえた江津市議会９月定例会。山下市長がその最終日に追加の一般会計補正予算案を提案しました。

コロナ禍対応の追加補正予算案

山下市長は９月定例会が開会した９月１日に、総額２億２２１７万円の補正予算案（第８号）を提案しましたが、９月定例会の最終日となった24日、新たに８４２０万円の補正予算案（第９号）を追加で提案しました。第９号は、主に国からの新型コロナウイルス対策のための臨時交付金に対応したものとして計上されました。

路線バス事業者の運行経費を支援

コロナ禍により、バスの利用者減が見込まれる状況で、公共交通事業者へ運行経費（人件費・燃料費）の一部を支援するとし、複数の市町をまたがるバス路線・起終点がともに江津市内のバス路線を運行する事業者へ各40万円、合計80万円を交付します。なお、事業者には県からも60万円が交付されます。

ただ、支援の対象となる石見交通では、経営難から９月末でシビックセンターゾーンの券売所を閉鎖（今後の業務はパレットごうつの観光協会へ委託）しており、ちぐはぐな対応となっています。

券売所とともに待合室も閉鎖

保育士などへ１人５万円の協力金

コロナ禍による休業要請があっても休めない保育所・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の職員に対して、１人５万円の応援協力金を支給するため、１６３５万円を計上しています。

対象は、国が臨時休業を要請した３月２日から、県立高校の一斉休業が終了した５月25日までの間で、５日以上勤務し４月１日以降に在籍している職員で、保育施設では２７０人、放課後児童クラブなどでは57人となっています。なお、費用の半分は県の負担となります。

２０００円で３０００円分の飲食券

コロナ禍により客足の減った飲食店への対策として、３０００円分の飲食券を２０００円で販売するプレミアム付き飲食券について、１８９０万円を計上しています。

商工観光課では、５００円６枚つづりの飲食券を１万５０００組発行し、プレミアム部分の１５００万円とあわせ、「４５００万円の経済効果が期待でき」ると説明。事業期間は11月１日から３月31日までの予定とされています。

観光誘客と地場産業の振興

同じくコロナ禍により客足の減った宿泊業への対策として、市内宿泊施設で１泊２食以上した観光客を対象に、宿泊額に応じて市内特産品をプレゼントするため、１２４０万円を計上しています。

贈呈される特産品は、「ふるさと寄付金」の返礼品と同じラインナップで検討されており、宿泊業に加え、地場産品の生産者への経済効果が期待されると説明しています。

７月災害の被災家屋の公費解体

７月の豪雨災害で半壊以上の判定を受けた被災建築物で、所有者が解体の意向を示し、市が必要と認めたものへの公費解体費用として、３５４４万円が計上されています。これは２年前には活用しなかった環境省の制度と同じものです。

十分に審査できない定例会最終日の提案

しかし、定例会最終日に提案されたことで、通常行われる予算委員会での審査が日程的に困難で、本会議での質疑（議員１人につき３回まで）しか行われず、市議会としての行政へのチェックが十分なものとなりません。

日本共産党江津市議団はこの補正予算案について、市議会の議会運営委員会（河野正行委員長）において、「本会議を一時中断して、予算委員会で審査する時間を設けるべき」と求めたものの、議会運営委員会は多数決により「審査は行わない」と決定。本会議の場での党市議団からの異議も却下されました。

山下市長は６月定例会最終日にも、同様の手法で新型コロナウイルス対策の補正予算案１億８２９２万円を提案（即日可決）しており、行政による議会軽視と市議会による責任放棄が深刻化しています。

半年待ってこの程度？

補正予算案に党市議団の多田伸治市議は「バス事業者への支援が不十分で券売所が閉鎖される。県のプレミアム付き飲食券の販売が低調なのに、市内飲食店の意見も聴かずに実施される。観光誘客の取り組みでは、感染予防と両立する説明がない。７月の災害に関わる被災家屋の解体補助は、被災者支援として前向きなものだが、コロナ禍が問題となって半年での緊急の追加提案としてはお粗末」と反対討論を行いました。

しかし、党市議団以外の全ての市議の賛成により、補正予算案は可決されました。

悩み・困りごと
ご相談ください

森川よしひで
０９０－７３７９－１５５４

多田伸治
０９０－６０１４－２２５９

菅内閣の政治姿勢をどうみるか
後編「自助・共助・公助」の変遷
党西部地区委員長　むこせ慎一

後編では、菅首相が政治姿勢として強調する「自助・共助・公助」について、自民党政治でどのように扱われてきたかをたどります。

●「自助・共助・公助」のはじまり

1980年代にあった社会保障亡国論（社会保障が財政を食い尽くし国が破綻する＝新自由主義）の中で、公助＝社会保障を言いつつも、「自助・共助（互助）が重要」とする論調が現れます。そしてその流れのなか、83年2月にそれまで10年間無料だった老人医療が有料化されるなど、社会保障のスリム化が狙われ始めます。

95年、阪神大震災では自衛隊など外部からの救援が道路寸断で到着に時間が掛かりました。これを教訓に、災害への備えは3日程度持ちこたえられるよう、食料や水の確保、ハザードマップの作成や確認、自治会などでの訓練が強調されました。「自助・共助」が日常語となり、防災標語以外でも使われるようになります。

●自助共助重視に激変

06年5月に政府がまとめた報告書『今後の社会保障の在り方について』は、「自助、共助、公助の適切な組み合わせによって形づくられるべきもの」「自助を基本とし、生活のリスクを相互に分散する共助が補完、自助や共助では対応できない困窮などの状況に対し～中略～公的扶助や社会福祉などを公助」とし、国民皆保険・皆年金体制などの社会保障制度が、公助ではなく共助へ変更されました。この変更は、小泉政権の最終盤に出され、同年誕生した第一次安倍政権に引き継がれました。

この姿勢は、民主党政権時に表現が一部穏やかになるものの、第二次安倍政権で復活します。しかし、「＊社会保障のほとんどを公助ではなく共助とするものであり、～国民相互の連帯・助け合いに矮小化する」「＊福祉の保険化さえ内包するものであって、社会保障への公的責任を緩める」「＊特異な解釈が出てくるのは、社会保障を自助の補完に留めたい新自由主義の志向に根本的な原因がある」と指摘されています。

●政府はそもそも「公助」を準備する機関

災害救援などで使われ、多くの人が是とする「＊モラルとしての自助」と、「＊社会システムとしての自助」を敢えて混同し、社会保障の縮小と「自助努力」を求めるのが政府方針となっています。菅首相は、こうした政府方針を自らの政治姿勢として強調しており、「持続可能な」を枕詞に一層社会保障を削減しようとする姿勢が透けて見えます。

コロナ禍で状況は変化していますが、空前の内部留保を貯め込む大企業や、投資家への適切な課税で、財源を確保し、社会保障充実に舵を切るべきです。

◇◆◇◆◇◆◇

ほとんどの国民に投票権がない自民党総裁選を各社は延々と報道し、未だ内閣総理大臣が決まっていない状況で「〇〇が△大臣に内定」と速報を連打する異常さ。官邸と広告会社・報道機関が一体となった世論形成がすすめられています。

（＊厚生労働省の特異な新解釈「自助・共助・公助」。大阪市立大学名誉教授、里見賢治。社会政策学会誌「社会政策」第5巻2号）

写真『焼き場に立つ少年』は？

この夏、特に印象に残ったのが『焼き場に立つ少年』の写真。原爆投下後の長崎で、死んだ弟を背負い、裸足で火葬の順番を待つ少年が、「気をつけ」の姿勢で唇を結び、前を見つめています。昨年来日したローマ教皇は、長崎を訪れた際この写真に「戦争がもたらすもの」とのメッセージを添え、世界中に配布しました。

少年がどこで写され、どんな思いでその後を生きたのか。NHK長崎放送局が3年間にわたる取材を元に制作したETV特集が放送されました。

原爆投下から1カ月後にアメリカの占領軍が上陸、その中にこの写真を撮ったカメラマンのジョー・オダネル氏（以下J氏）がいました。九州北部を担当したJ氏が長崎で少年に出会った時期を、J氏が公務外で撮った膨大な写真を手掛かりに絞っていきます。

―写り込んでいる陰影から時期は10月中頃、裸足の足元の石柱に旧字体の「懸」の字、架線から鉄道の信号機用と推測、そして背景の段々畑や木立から「見覚えのあるA駅とB駅の間では」との当時の鉄道技術者の証言。写真はカラー化もされ、ある医師が少年の鼻に布が詰め込まれていることと、白目の一部に出血のあとがあることを発見。放射線による骨髄障害を起こし、血小板の減少で出血しやすくなっていたのではないかと、少年を蝕む被爆の兆しを推測しました。

取材は少年にたどり着けませんでした。長崎で孤児となった人は「被爆後の街に生き残った子どもはみんな同じ表情だった。悲惨で過酷な境遇だったろう。我慢、我慢で泣きごとは言えなかった」と。戦後、J氏と結婚した日本人の妻は「夫は『原爆は間違い。被爆した人達に比べれば、自分の苦しみはなんでもない』と、少年のことを気にしながら亡くなった」と語りました。

9月30日、マレーシアの批准で核兵器禁止条約発効まであと4カ国となりました（発効要件は50カ国の批准）。日本の批准を今こそ。平和の願い実現には、市民と野党の連合政権の誕生が早道です。

M子

お悔やみ申しあげます（敬称略）

25日	林　豊子	（92）	二宮町
25日	井上ハツ子	（88）	桜江町江尾
30日	松田美枝	（94）	桜江町長谷
30日	小林千恵	（73）	嘉久志町